

COSMETIC FOR REMOVING KERATOTIC PLUG

Publication number: JP2002241260
Publication date: 2002-08-28
Inventor: NAKAMURA ARATA; YABU SUEHITO
Applicant: SHISEIDO CO LTD
Classification:
- international: (IPC1-7): A61K7/50
- european:
Application number: JP20010042430 20010219
Priority number(s): JP20010042430 20010219

Report a data error here

Abstract of JP2002241260

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a simple method for removing keratotic plugs without pain.
SOLUTION: This cosmetic for removing the keratotic plugs is characterized as comprising ≥ 50 mass% of an oil having 5-80 mPa.s/25 deg.C viscosity.

Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-241260

(P2002-241260A)

(43) 公開日 平成14年8月28日 (2002.8.28)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テマコード* (参考)

A 6 1 K 7/50

A 6 1 K 7/50

4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2001-42430 (P2001-42430)

(22) 出願日 平成13年2月19日 (2001.2.19)

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 中村 新

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株

式会社資生堂リサーチセンター (新横浜)

内

(72) 発明者 藪 季仁

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株

式会社資生堂リサーチセンター (新横浜)

内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 角栓除去用化粧品

(57) 【要約】

【課題】 簡便かつ苦痛を伴わない角栓除去方法を提供する。

【解決手段】 粘度が5~80 mPa・s / 25℃の油分を50質量%以上含有することを特徴とする角栓除去用化粧品。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】粘度が $5 \sim 80 \text{ mPa} \cdot \text{s} / 25^\circ\text{C}$ の油分を 50 質量%以上含有することを特徴とする角栓除去化粧料。

【請求項 2】化粧料全体の粘度が $10 \sim 70 \text{ mPa} \cdot \text{s} / 25^\circ\text{C}$ であることを特徴とする請求項 1 記載の角栓除去化粧料

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、角栓（毛穴につまった汚れ）除去化粧料に関する。更に詳しくは、低粘度油分を特定の割合で配合することにより、毛穴の中の汚れまで除去することが可能な油状液体化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】「角栓」とは、毛穴の中につまった皮脂等の汚れをいい、皮膚表面の汚れに比べて除去しにくい。しかし、角栓をそのままにしておくと、ニキビや毛穴の黒ずみの原因となるため、その簡便な除去が望まれる。従来、角栓を除去する方法としては、テープ剤の貼付やパック剤の塗布が行われている。すなわち、テープ剤を皮膚に貼付、あるいはパック剤で毛穴を包み込んで、これらに角栓を吸着させた後、テープ剤やパック剤を剥離して、同時に角栓も強引に引き抜くという方法である。しかしながら、これらの方法では、テープ剤やパック剤の剥離時に痛みを感じたり、また皮膚に対する刺激が強いため、肌に残したり、出血を伴うといった問題点があった。

【0003】

【課題を解決するための手段】本発明者は、かかる従来技術の問題点に鑑み、鋭意検討した結果、粘度が $5 \sim 80 \text{ mPa} \cdot \text{s} / 25^\circ\text{C}$ の油分を 50 質量%以上配合した化粧料を用いて、皮膚をマッサージすると、皮膚に刺激を与えることなく、角栓を毛穴から効果的に浮き出させて除去しうることを見出し、本発明を完成するに至った。

【0004】すなわち、本発明は、粘度が $5 \sim 80 \text{ mPa} \cdot \text{s} / 25^\circ\text{C}$ の油分を 50 質量%以上含有することを特徴とする角栓除去化粧料に関する。また、本発明は、化粧料全体の粘度が $10 \sim 70 \text{ mPa} \cdot \text{s} / 25^\circ\text{C}$ であることを特徴とする前記角栓除去化粧料に関する

【0005】以下、本発明の構成について述べる。本発明に用いられる油分は、粘度が $5 \sim 80 \text{ mPa} \cdot \text{s} / 25^\circ\text{C}$ （以下、 $\text{mPa} \cdot \text{s} / 25^\circ\text{C}$ を単に $\text{mPa} \cdot \text{s}$ と記載する。）の油分でなければならず、特に $6 \sim 50 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ の油分がより好適である。粘度が $5 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ 未満では化粧料としての使用性に劣り、粘度が $80 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ を超えると角栓除去効果が不十分になるからである。

【0006】本発明における粘度とは、単一円筒型回転

粘度計を用いて測定される 25°C における粘度をいう。なお、本発明における粘度の測定にあたっては、上記粘度計の 1 つである、芝浦システム(株)製「DIGITAL VIS METRON VDA (ローターNo.1)」を使用し、回転数 12 rpm 、 60 sec の条件で測定した。

【0007】本発明に用いられる粘度が $5 \sim 80 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ の油分としては、たとえば、流動パラフィン（粘度 $24 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ 、 $47 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、合成パラフィン（粘度 $30 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、スクワラン（粘度 $23 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、オクタン酸セチル（粘度 $17 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、イソプロピルミリスレート（粘度 $32 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、トリオクタン酸グリセリン（粘度 $35 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、イソステアリン酸（粘度 $51 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、オレイルアルコール（粘度 $54 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、オリーブオイル（粘度 $72 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、ジメチコーン（粘度 $8 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）、シクロメチコーン（粘度 $7 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ ）等があげられる。

【0008】本発明にかかる角栓除去化粧料において、前記油分は、化粧料全量に対して、50 質量%以上（以下質量%を単に%と示す。）配合される。50%未満では十分な角栓除去効果が得られないからである。

【0009】また、前記油分を配合した結果、本発明における角栓除去化粧料全体の粘度は $10 \sim 70 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ となるのが好ましい。化粧料全体の粘度が高すぎると、化粧料が十分毛穴に入り込むことができず、角栓除去効果が悪くなるからである。

【0010】本発明において、角栓除去効果は配合される油分の粘度の影響を強く受け、油分の構造による影響は小さい。また、化粧料への界面活性剤や水の配合も、角栓除去効果に殆ど影響を与えない。これは、角栓の除去には、化粧料が毛穴と角栓の間の隙間に入り込み、角栓となじむことが、最も重要であるためと考えられる。

【0011】本発明にかかる角栓除去化粧料には、必須成分である前記油分のほかに、界面活性剤、水、エタノール、高価アルコール、香料、酸化防止剤、紫外線吸収剤、色剤、皮膚栄養剤など、通常化粧料に用いられるその他の成分を、本発明の目的を損なわない範囲で、適宜適量配合することができる。

【0012】次に、試験例を挙げて本発明の効果について詳細に説明する。なお、本発明はこれらの試験例に限定されるものではない。

【0013】試験例：クレンジングオイル

表 1 に示す処方、常法に従いクレンジングオイルを調製し、角栓除去効果について、官能評価と実測評価を行った。結果を合わせて表 1 に示す。

【0014】試験方法：顔面に角栓を多量に有していると自己申告したパネル 48 人を 3 班に分け、10 日おきに 3 回、試料（クレンジングオイル）を使用して 10 分間マッサージを行ってもらった。各回毎に以下に記載する評価を行い、3 回の平均値により最終評価を行った。

【0015】官能評価：角栓除去効果感

角栓除去効果感として、マッサージ中の「角栓が指先に
あたる感覚」について評価してもらった。表中の数字
(%)は「角栓が指先にあたる感覚を感じた」と答えた
パネルの割合を表す。

【0016】実測評価：角栓の除去数

クレンジングオイルでマッサージ後の被験者の皮膚に、*

* スライドグラス(76×26mm)を10秒間押しあて
て、毛穴から浮き出された角栓を移し取った後、目視に
よりスライドグラス上の角栓の数を数えた。

【0017】

【表1】

(配合量は質量%)

	実施例No 比較例No	1				2		
		1	2	3	4	1	2	3
油分	テトラオクタン酸ベンタエリ スリデル(粘度105mPa・s)	40	—	—	—	99	—	50
	流動パラフィン(粘度24mPa・ s)	50	40	50	20	—	20	—
	オクタン酸セチル(粘度17mPa・s)	—	—	30	—	—	—	30
	デカメチルシクロペンタシロ キサン(粘度7mPa・s)	—	50	—	70	—	—	—
	オクタメチルシクロテトラシ ロキサン(粘度2mPa・s)	—	—	—	—	—	70	—
界面 活性 剤	ジイソステアリン酸ポリエチ レングリコール	10	—	10	—	—	—	10
	ジイソステアリン酸ポリエチ レングリコール	—	10	10	—	—	—	10
	モノイソステアリン酸ポリエ チレングリコール	—	—	—	10	—	10	—
香 料		—	—	—	—	1	—	—
評価 結果	化粧料の粘度(mPa・s)	82.0	19.8	28.3	11.6	105.0	8.2	71.5
	角栓の除去数(個/1人・1回)	20	23	25	2	1	4	8
	角栓除去効果(%)	81	100	100	100	12	38	25

【0018】表1の結果から明らかなように、本発明に
かかるクレンジングオイルは優れた角栓除去効果を有す
ることが確認された。

※載するが、本発明はこれらの実施例のみに限定されるも
のではない。

【0020】実施例5：クレンジングオイル(質量%)

【0019】次に、本発明のその他の実施例について記す

(1) 流動パラフィン(粘度：24mPa・s)	77.0
(2) メチルフェニルポリシロキサン(粘度：17mPa・s)	2.0
(3) オクタン酸セチル(粘度：17mPa・s)	10.0
(4) イソステアリン酸(粘度：51mPa・s)	1.0
(5) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE12)	4.0
(6) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE8)	2.0
(7) モノイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE10)	2.0
(8) d-δ-トコフェロール	適量
(9) オウバクエキス	適量
(10) 精製水	残余

【0021】実施例6：クレンジングオイル(質量%)

(1) 流動パラフィン(粘度：24mPa・s)	27.0
(2) メチルフェニルポリシロキサン(粘度：17mPa・s)	5.0
(3) オクタン酸セチル(粘度：17mPa・s)	20.0
(4) オリーブ油(粘度：72.5mPa・s)	30.0
(5) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE12)	7.0
(5) ジイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE8)	3.0
(6) モノイソステアリン酸ポリエチレングリコール(POE10)	5.0
(7) アルコール	適量
(8) d-δ-トコフェロール	適量
(9) 精製水	残余

【0022】

となく、効果的に皮膚の角栓を除去することができる。

【発明の効果】本発明によれば、皮膚に刺激を与えるこ 50

フロントページの続き

F ターム(参考) 4C083 AA112 AA122 AC022 AC102
AC352 AC392 AC402 AD152
AD172 AD662 BB13 CC02
CC06 CC23 DD23 EE07 EE10
EE12